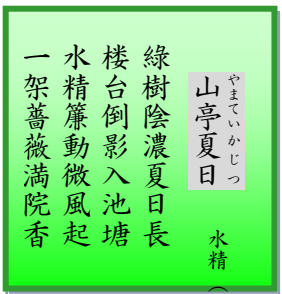


彩の歳時記

令和元年 七月



緑樹陰濃（こまや）かにして夏日長し 樓台影倒（さかしま）にして池塘（ちとう）に入る

すいしょうの簾（れん）動いて微風起（こり）一架の薔薇（しゃうび）満院香（かんば）し

樹々の木陰は緑が濃く、夏の日差しは長い。池畔の高樓はその影を逆さに池に映している。

水晶の簾がサラサラと動いて、微風が起（こ）り、薔薇の棚からの香りが庭一面にたちこめる

『山亭夏日』は小学五年の教科書にも登場する有名な漢詩。作者の

高駢【821～887】は武人でもあった為、混乱の中に戦死した晩唐の詩人

水晶の簾（すだれ）・棚（い）っぱいの薔薇が印象的な詩。薔薇は 夏の季語で真夏も

華やかな美を誇ります。陽射しの強さが樹の陰の濃さをより際出させる夏の空、ギラつく太陽の下、バケーションを満喫すべく、海外・海・山に緑り出した昭和・平成時代を経て、昨今は身近でゆったりとお洒落な時間を過ごす人が増えています。オリンピックを控え、都心を中心に趣向を凝らしたロケーションを備えた施設が増え、人々に寛ぎの空間を提供しています。

七月の暦 文月・文月 七夕の短冊に文字を書き付け、書道の上達を願ったことに由来。文ひろげ月、

一日 山開き 古来、信仰行事であった登山は普段は禁止されていて、夏の一定期間だけ禁が解かれた。現在は、夏山登山の安全を祈願した行事。

海開き 海水浴シーズンを前に海での安全を祈願する行事。共に地域によって異なる。

二日 半夏生【雑節】 梅雨の末期、天地に毒気が満ち、半夏という毒草が生ずると考えられた。「ハンゲ」はカラスビシヤク。葉の半分が白く化粧したようなので半化粧。

六日～八日 入谷朝顔市 江戸時代末期に大ブームとなった朝顔は、明治に衰えたが、明治15年（1882）頃から、入谷田圃で栽培されるようになり、入谷鬼子母神の市は1948年に復活、70年の歴史がある。100軒以上の朝顔店が軒を連ねる。

七夕 五節句の一つ。星祭。琴座べガの織女星は裁縫、鷲座アルタイルの牽牛星は

農業を司る星、二つの星は旧暦へ月へ日に天の川をはさんで最も光り輝くことから、中国で一年一度の逢瀬、七夕伝説が生まれた。

※ 五節句：人日（1月7日）上巳（3月3日）端午（5月5日）七夕（7月7日）重陽（9月9日）

七日 小暑【二十四節気】 梅雨明けが近付き、暑さが本格的になる頃。蓮が咲き始める。

九～十日 四万六千日 寺社の縁日で、この日に参詣した者には6000日分参詣したのと同じ

十三～十五日 盆・盂蘭盆会 祖先の霊を供養する行事。胡瓜や茄子で牛や馬の形を作り供える。迎え火を焚き、先祖をお迎えて供養する。中央では七月、地方では八月に行う所が多い。

十五日 海の日（第三月曜日）元は二十日だが、2003年のハッピーマンデー制度によりこの日に。

二十三日 大暑【二十四節気】夏の暑さが極まる季節 熱中症予防勧告が毎日のように。

二十四日 河童忌・芥川龍之介【1892～1927】の忌日。河童の絵を好んで描いた事に因る。

芥川賞は彼を記念して1935年に菊池寛によって制定。今も話題性に富む賞。晩年までの十四年間に、田端に住む。「蜘蛛の糸」「羅生門」「杜子春」など。

二十七日 土用丑の日 夏の土用の期間の丑の日に精の付く食物を食べる風習から。鰻が結びついたのは、平賀源内が鰻屋のために書いた客寄せの言葉から。

七月の歌 カイマナ・ヒラ Kaimana Hila チャールズ・キング（1874-1950）

ハワイ語のダイヤモンドの意味・カイマナと英語のヒル（Hill）の合成語 長い髪を海に垂らし横たわる乙女に例えられるダイヤモンドヘッド、近年 ひそかにブームを呼んでいる「フラダンス」のダンサーに愛されている一曲。 ハワイ語のHula、フラは『踊る』の意味。



Iwaho makou i ka po nei 'Ike i ka nani Kaimana Hila Kaimana Hila kau mai i luna 出かけた夜に見たものは 世にも美しいカイマナヒラ 偉大なるカイマナヒラ

